

## 愛知労働局長がベストプラクティス企業を訪問しました

愛知労働局では、令和6年11月22日、小林洋子局長が住友理工株式会社 小牧本社・製作所を訪問しました。

住友理工株式会社は、1929年に三重県四日市市で創業し、1964年に小牧市に本社を移転しました。自動車用防振ゴムで世界トップシェア、自動車用ホースで国内トップシェア（同社調べ）の高機能ゴム・樹脂製造企業です。

冒頭、清水和志代表取締役・執行役員社長から「就任当初は残業がたくさんあり、職場を変えていかないと優秀な人が入ってこないとの思いのもと、様々な仕掛けをしている。」との御挨拶があり、その後、資料を用いて同社の取組に関する説明がありました。



同社では、「生き生き5活動」と銘打って、時間外労働の削減や年次有給休暇の取得促進などを通じた働きやすさの向上だけではなく、育児・介護に関する各種研修や職場支援を通じて働きがいの向上にも力を入れています。

また、事業所内託児所「コアラボっけ」を開設しており、20時30分までの延長保育にも対応するなど、社員が安心して働ける環境づくりに努めています。

その後、令和6年11月にリニューアルしたばかりの健康支援センターや防振工場、さらには社員みずからが提案・企画して改装された工場内の休憩室なども視察しました。



また、本年4月から、トラックドライバー等にも時間外・休日労働の上限規制が適用されていることへの対策として、定期ルートの見直しや荷卸し時の待機所の設置などに取り組んでいるとのことでした。

最後に、小林局長は「勤務間インターバルの実施に際して社員への周知を丁寧に時間をかけて行うなど、基本的なこと、地道なことをしっかりとやられているという印象を受けた。また、安全衛生についても、ヒヤリハットの段階ですぐに吸い上げて対応されていることが重篤な災害の防止につながっていると感じた。」と感想を述べました。